

保険証一枚ではり・きゅう・マッサージを受けたい

医療を考える会 会報

発行元:NPO 法人 医療を考える会

住所 渋谷区代々木 2-39-7 メゾン代々木 201 号

TEL 03-3375-6151 / FAX 03-3299-5275

メール iryo-kangaeru@waltz.ocn.ne.jp

ホームページ <http://npo-iryo.org/>



新年のご挨拶

理事長 山西 俊夫

新年おめでとうございます。

みなさまお元気で 2022 年の元旦を迎えられたことと思われま。

昨年度は新型コロナの影響で、予定していた 2 月千駄ヶ谷社教館祭り、11 月稲田公園野外パーティー、レクリエーション活動がいずれも中止、月 1 回のマッサージ体験治療の開催も大きく制約を受けました。しかし会員で感染された方がおられなかったことは、ワクチンだけでなく東洋医療（はり・きゅう・あん摩マッサージ指圧）を通じてコロナに対する免疫力が備わっている効果が大きいからだと自負しております。

11 月の第 17 回定期総会で、会の名称を NPO 法人「医療を考える会」から NPO 法人「東洋医療を考える会」に改称することが採択されました。当会の位置づけ、運動理念がより鮮明になったと考えております。12/14 東京都に「定款変更認証申請書」を提出しました。3 か月以内に認証の結論が出る予定です。

今年は、国民の会、(社)鍼灸マッサージ師会と一緒に、国会議員、厚労省との懇談会、審査請求公開審査に参加し、患者の声を国に届けることで患者に不利益な受領委任払いの不備を正す運動を積極的に展開したく、会員各位のご協力をお願い致します。それには会員拡大による組織の強化が必要なことは言うまでもありません。

2022 年度も当会の皆さんの力を結集して国に健康保険適用の運動を力強く展開してゆきましよう！

どうなるコロナ感染問題 黒部信一先生のお話をきいて



理事 田中 榮子

黒部先生は社会で起きた医療問題などを、患者さんの立場からよくしていこうと努めてこられました。

たとえば、いろいろな病気の検査、X線検査がありますが、患者さんが必要以上にX線をあびないように対応されてきたお話や、また、福島県原発事故についても被害者の立場を重視して、支援も継続されてこられました。

先生は練馬区の「すずしろ診療所」に勤務され、「サイ

エンスグループ」に在籍されておられる由。

新型コロナウイルスのパンデミック (世界的な大流行) はなぜ起きたか

新型コロナウイルスは昨年12月、武漢から始まった。武漢は中国の四大経済圏の中心地で、中国国内で一番急速に人口拡大が進んでいるとの事。

中国の都市には、農村から農民が殺到し、都市の周辺にスラムを形成しているとの由。

「資本主義」というのは、世界の気候を無視して、生産を続け利益を追求する。先進国は自分たちの経済活動、生産活動が自然を破壊することに気がついてきた。

今、パンデミックを起こす適当なウイルス、つまり、新型コロナウイルスCOVID19が登場した。

病気は人間が4足歩行になり、狩猟、採集生活をしているころ病気はなかった。農業が始まり、自然界に入るようになってから病気がでてきた。

開発によって自然界と人間の世界が近くなったからいろいろな動植物が人間の生活圏へ入り込んできた。もちろん感染症の多くはそうして人間界に入り込み、そして、人間との適応関係を結んで消えていく。

新型コロナはサーズ(SARS)の亜型、変異種であり、生き延びる戦略を自然ととりパンデミックを起こした。何年もかかるだろうが、いずれ新型コロナも人間と適応関係を結んで平和共存していくことになる。(ルネ・デュポラ)

多くの国で、富の不公平な分配が拡大している。地球温暖化の人間社会への影響「人新生の資本論」を著した斎藤幸平さんのお話があった。

感染症の重症度は免疫の程度できまる

この感染症による重症度は、人間の側の免疫の程度により決まる。人間の側の免疫度は心と体は一体である。過重労働で疲れていても、ストレスや心労で疲れていても免疫は低下する。

不安は免疫を低下させる。コロナのことあまり心配していると免疫は低下する。

格差拡大。市場経済を進めると必然的に貧富の差が生まれてくる。経済的困難を抱える人々。コロナ感染者、貧困層では食事もろくろくとれない人々が免疫力よわく重症化し、死亡率も高くなる。

この感染症は、そんなに騒ぐほどのものではない。

仕事をきちんとし、清潔を保ち、住環境、食生活を守る。ウイルスは直射日光に弱い。感染力は強いが死亡率は高くない。

マスク、手洗い、社会的隔離はそう神経質にならなくてよい。

日本は、韓国、台湾、マレーシア等と同じく二重経済がなく、格差も比較的少ないので感染者もすくない。だが、このコロナウイルスの正体もまだはっきりしない。

感染対策で大切な事

厚生労働省は伝染病棟を閉鎖し、保健所を減らしてきた。感染症対策をワクチンにすり替えた。だがしかし、隔離病床を残しておくべきだった。感染を広げないための基本である。

経済的困難がある母子家庭をはじめ、一人親家庭への経済的支援。貧困者とコロナ関係で職を失った人たちへの経済補償は欠かせない。

ワクチンは完全なものではない。受けたくない人に無理強いはいしない。自然免疫を高めていくことが重要。心と免疫は連動している。はり、灸・マッサージをするときも「これで大丈夫ですよ」といわれれば安心する。

(コロナも心配しすぎず、穏やかに生きましようね。2021年12月7日 田中栄子)



〈講演会についてのアンケート結果〉

- ① 良くわかりました。ありがとうございました。(T.W)
- ② とても刺激を受けました。お話を聞けて良かったです。何も今まで役に立ってきませんでしたがこの先何かに役に立つ仕事ができたらと思っています。なかなか一歩が踏み出せずにいます。(M.M)
- ③ とても良かったです。私が思っていた通りの内容でほっとしました。ほとんどの医師と見解が違うのではないかなと思える中、勇気ある活動に感動しました。(K.S)
- ④ これまでなかった視点を聞いて、新鮮な刺激を受けました。(無名)
- ⑤ 現在の報道内容と視点からのお話を聞け、学べました。(M.T)
- ⑥ 参考文献を再読してみようと思います。(T.H)
- ⑦ 大変良かった。気は心のような医療が科学的なエビデンスだけでは定義できない、精神領域の分野に踏み入って精神と身体の間接の密接さを感じました。(Y.M)
- ⑧ 免疫を正しく良く働かせることがすべての病気で大事と思っています。経済格差は健康格差を生む20年前から言われていますね。ありがとうございました。(M.T)

以上8名の方からアンケートを書いていただきました。

本当のコロナ感染防止対策

理事 久下 勝通

感染の防止対策というと、マスクの着用、三密（密閉・密集・密接）防止などコロナウイルスとの遭遇を避けることが叫ばれ、社会活動の縮小のなかで大きな不安が生まれています。

コロナ感染第五波の終息も、なぜ終息したのかわからない問題も多く、寒さが強まる中で再びウイルスの活動が活発になってきました。感染力を強めた変異株「オミクロン株」の感染者も各地で現れ、第六波の感染拡大への危惧が大きくなっています。

この状況の中で、今後のコロナ感染対策を考えると、11月21日に開催した講演会における、黒部信一医師の講演は、コロナ感染問題の本質はこれだと思わせるお話でした。

ウイルス感染の拡大、重症者増加の原因は免疫力の低下が原因

黒部医師は、感染の拡大、重症者の増加は、人間の側に問題がある。人間が本来持っているべき免疫力を失い、免疫力の低下が発生していることこそが感染拡大、重症化増加の原因であると指摘するのです。

「インフルエンザウイルスは毎年流行株が変化しているし、10年に一度くらい大きな変化があり、さらに30年程度で大きな大変化がありますが、臨床上の症状の変化はほとんどないです。だから宿主となる人間の側の違いの方がもっと重要です。

新型コロナウイルス感染も同じです。普通のコロナウイルスによって生じるのは、風邪の症状で治癒することがほとんどです。それから大きく変化したサーズやマーズが重症化しましたが、それよりはるかに弱毒の今のコロナウイルスが、小さな変異をしても毒性に変化はほとんどないのです。現在、重症化している人が増えることを遺伝子の変化が原因として片づけています。しかしそうではありません。人間の側が変化しているのです。

黒部医師は感染拡大、重症化増加の原因がわれわれの免疫力の低下にあるとはっきり指摘しています。我々国民の免疫力低下をもたらしている状況について以下のように指摘しています。

「その原因は、コロナに打撃を受けた約110万人の年収200万円以下（2018年）の人たちで、主にパートやアルバイトなど非正規で働く人たちが、コロナで職を失いさらに追い詰められているからです。」

貧困の拡大こそ免疫力低下の原因

黒部医師は、免疫力低下の原因を次のような項目でまとめられていますので要点を列挙します。

1) 貧困とさらなる追い打ちのコロナの失業

貧困は快適な住居を失い、食料に事欠くために、免疫力低下の最大の原因です。

女性一人親家庭の実情、子どもは1日2食、親は1食しかたべていない。

2019年全雇用者数のうち非正規は38%の2165万人、その後のコロナで非正規、主に女性が解雇された。月刊誌「世界」の雨宮処凛の報告では、7月に前年比で非正規が131万人減（失業）で、そのうち女性が81万人。8月減少（失業した）パート・アルバイトの74万人うち女性63万人。

このような非正規女性の2018年の平均年収は154万円。2019年には貯蓄ゼロ世帯38%。この人たちがコロナで失業し、家賃が払えず、生活費がなくなっています。

自殺者の増加、コロナ失業にホームレス化が増加、失業しても失業保険をもらえない人も少なくない。

2) 過重労働

貧困者は仕事の掛け持ちをしています。医療関係従事者の過労。大病院の看護師は日常的にも過重労働でブラック企業並みです。看護師の夜勤は 16 時間連続勤務で、医師の宿直勤務は 36 時間連続勤務です。仕事のある人は失業を恐れ懸命に働きます。特に歩合制の職場は仕事の取り合いです。

3) 居住環境

貧困者は日常的に貧しい食生活で過重労働をしています。しかも、劣悪な環境に住んでいます。カプセルホテルやドヤ街、ネットカフェが宿泊場所になっている。今年は政府もネットカフェを営業停止させられなかった。ネットカフェを宿泊場所にしている人全国 4000 人といわれている。

日本では移民、亡命を認めず学生、研究生、研修生として入国するため難民が隠されている。多国籍の人達は、狭い部屋に大勢で住んでいる。

4) 解熱剤の使用

感染した人や感染を疑われる人が解熱剤を使用していることが疑われる。かぜ薬つまり総合感冒剤にも解熱剤が入っている。解熱剤とステロイド剤は、早期から使うと重症化しやすいことは中国の経験でわかっている。しかし、日本の多くの医師はまだ解熱剤を対症療法と称し処方する。また、感染したときに、熱があると早く治そうとして解熱剤を飲む人は多い。そういう人たちが重症化しているのではないか。長期連続の解熱剤の使用は、重症化の最大の要因です。

5) コロナの恐怖症

精神的要因も悪化する原因です。重症者や死者の話ばかり報道されるので、感染したら自分もそうなると思い込む人が少なくありません。ストレスが免疫を低下させることも判っています。だから、神経質なひとほど病気にかかりやすく、かかると不安で病気が悪化します。適切な治療を受ければ、重症化するかどうかは、その人の健康状態によります。

以上のように、免疫力低下の原因を明らかにし、免疫力低下がコロナ感染の拡大、重症化の原因と指摘しています。

したがって、黒部医師のコロナ感染拡大防止、重症化防止の対策の基本は、弱者の救済、貧困の解消、そして医療の充実です。感染症を軽視し国公立病院の統廃合を求め続けてきた政府の対応を厳しく批判しています。黒部医師のブログをぜひご覧になっていただきたいと思います。

<https://blog.goo.ne.jp/kuroshin1941>



コロナウイルスから身を守るのは、体内の免疫力、免疫力を高める

東洋医療を健康保険法で明確に位置づけ活用しましょう

東洋医療を活用する提案を紹介します。

平成 21 年度 厚生労働科学研究費特別研究の中で「漢方・鍼灸を活用した日本型医療の創生のための調査研究」が行われた。

第 2 回班会議 東北大学医学系研究科先進漢方治療医学講座の関隆志氏の発言

【医療制度】

医療として、医業として認められていないということでありまして、医業類似行為という名称で、健康保険も基本的にはきかないわけです。私は東北大学病院でやっていますが、結局、保険がききませんので、最初は自分の科学研究費などの研究費で鍼を買って、鍼灸師さんには謝金を出してというようなことで、全くの持ち出しでスタートしました。どうしてもそれは非常に大変なことで、それで、ようやく病院に頼んで、一応病院として鍼を買ってくれる、機材として買ってくれるということになりました。健康保険がきかないというのは非常に大きいことで、要するに、病院としては、健康保険がきかないというのは医療として認めにくいわけです。それで、また、実際に収入にもならないということでありまして、病院、医療機関としても鍼灸治療を取り入れにくい制度の問題があるということがあります。

〈今後、何をすべきか提案〉

- ・ 今後の目標—鍼灸教育の充実。とくに医師への教育が重要。
- ・ 国を挙げて伝統医学のサポートを。国立の伝統医学研究所が必要。

と発言し提案しています。国は、こうした提案を積極的に活用して、国民の命と健康を守るために、東洋医療を健康保険法に明確に位置づけてください。

作年は、コロナウイルスパンデミックの第 5 波を受けて、陽性患者なのに病院に入院できないで亡くなられた方が多く出ました。これは明らかに、保健所の削減、病院の病床削減などの影響で、医療体制が弱体化した証です。国民の命と健康を守るために医療体制の充実を優先して取り組むことが必要です。体内の免疫力を高め、病気を予防する東洋医療も医療体制に組み込んで活用することを強く望みます。望が実現するよう今年も皆さんと一緒に頑張りたいと思います、今年もどうぞ宜しくお願い致します。

理事 高橋養蔵





千駄ヶ谷社教館団体発表会

日時 2022年2月13日(日)10時～14時

会場 千駄ヶ谷社教館 3階



コロナ禍により従来の「社教館まつり」が今年度は参加者の団体発表会となりました。NPO 法人医療を考える会は「体験マッサージ」として参加、好評を得てきましたが、それができない為今回はチラシや資料の配布という形で参加することにしました。

はり・灸・指圧・マッサージなど古くから親しまれている東洋医療は、その効能が免疫力を高め未病を治すとも評されています。医師の同意があれば保険証を使って治療を受けることも出来る様になり、寝たきりの方の往診も可能です。当日は国家資格のある専門家の治療師がご相談にお答えいたします。

又、毎月第3木曜日に和室をお借りして体験マッサージも行っていますが、ご希望の方の予約申し込みも受け付けています。気軽にお立ち寄りください。

体験マッサージ 1月20日(木) 1時30分～3時30分

2月17日(木) 同上

3月17日(木) 同上

尚、団体発表会は社教館に会員登録されている方のみ入場可能となっており、参加券が必要です。(後日郵送) また、「体験マッサージ」を希望される方も事前に手続きが必要です。ご協力をお願い致します。

当日はNPO 法人医療を考える会以外に7団体が学習室で集います。其々の作品の展示をお楽しみ下さい。

お知らせ…

も り ひろ こ
母里啓子先生 10月15日急逝(享年87歳)

医学博士でありワクチントーク全国代表、コンシューマネット理事としても活躍され、日本の予防接種の歴史を半世紀にわたり見てこられた母里先生のご冥福を心よりお祈り申し上げます。

著書:「子どもと親のためのワクチン読本—知っておきたい予防接種—」

「新型コロナワクチン3—知っておきたい副作用と救済制度のこと—」など

